

飯島賢二の 『恐縮ですが...一言コラム』

第 440 回 還暦の同窓会

2011 . 10.2

何年ぶりだろうか、高校時代の仲間が集まった。
還暦を機に、久々の同窓会、男子校だったから当然、いい歳のオヤジたち。
中には4人の孫に恵まれた好々爺然としたヤツもいた。
床屋でどこを刈ってもらうのか、毛が薄くなったヤツもいる。
白髪をなびかせるヤツもいる。
こう見ると、僕なんか、マシな方と内心自慢心を確信した。

医者がいる、学者もいる。公務員がいたり、上場大企業の役員もいたが、
その殆んどがリタイアメント。大学出てそのまま生保一筋、役員にはならずだが...彼の
退職金が約5,500万円と聞き、思わずお互いに顔を見合わせ、医者も税理士もびっ
くり。死ぬまで退職金がない俺たちは、これで良かったのだろうか、もう、手遅れだ。

ビールにワイン、焼酎と、グラスを重ねるたびに、昔話に花が咲く。
外見、風貌は随分変わったが、その笑顔は四十数年前にタイムスリップ。
学生闘争に翻弄された、あの熱気溢れる汗臭い「熊校生」に戻っていた。
なんのその、ヤツ等、みんな元気なのだ。

地元住まいは僕一人ゆえ、だれ彼となく
「いいじまぁ～次行こう！どっかつれてって」...
不況風なびく、人通りのないネオン街を、チョイ悪オヤジ軍団が闊歩する。
まさしく、不気味かつ異様な光景に違いない。

医者や士業が根城とする某スナックへ、おせっかいなマスターのギターライブが自慢の
小さなお店を占拠した。帰ったヤツは誰もいない。
マスターのギター伴奏で早速始まった、カラオケである。
今時、これほど色んな遊びがあるにもかかわらず、カラオケである。
ビートルズから始まり、GS(グループサウンズ)、スタンダードジャズと、マイクの取りっこ。
「妻や娘に見せてやりたいこの光景」とは、もちろん誰も思わない。
このご時勢、未だにカラオケでこれほど盛り上がるとは...これもタイムスリップなのだろう。
そして、悔(くや)しいかなこの連中、歌が顔(すこぶ)る、うまいのである。
相当のカラオケ授業料を払い続けたその結果、
髪がなくても、白くても、唯一の自慢とばかりカラオケは続いていった。

還暦のお父さん達は、元気である。
第一の人生をリタイアしても、まだまだ次を画策している。
「来年またやろう!」、酒の勢いからか、恐ろしいことを誓い合って、
さすがに、午前0時前にはお開きになった。お疲れ様である。